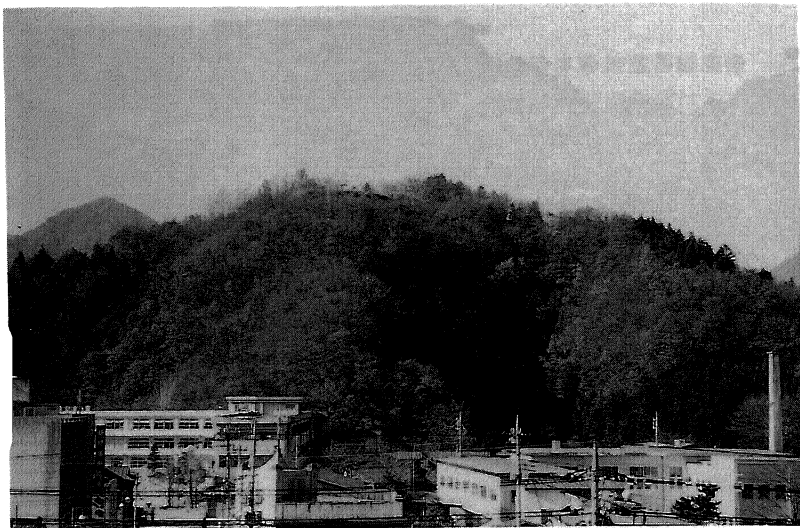
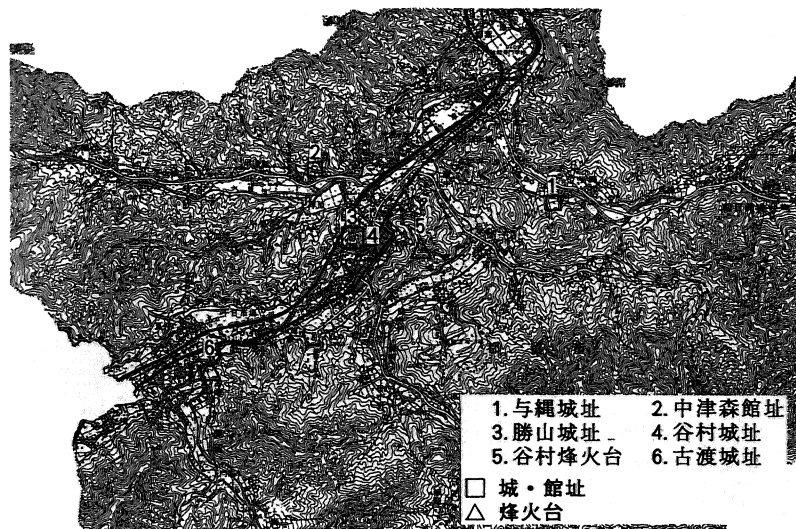
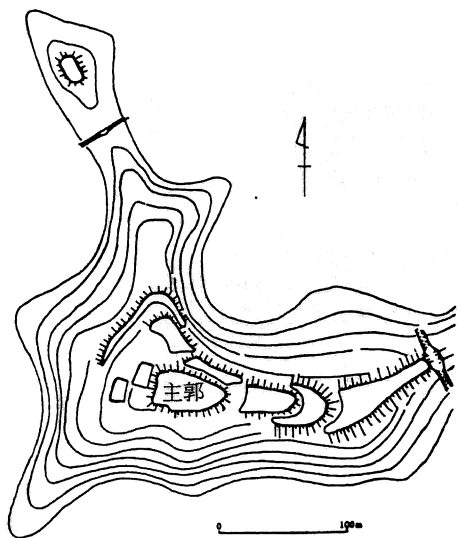




勝山城



都留郡小山田氏の館と城郭



谷村烽火台

明徳年間（1390～94）領主小山田富春が開基となり、中津森（現金井）に菩提寺として富春山桂林寺を建立しているの、すでに小山田氏の館があったことが知られる。

谷村に館を移した越中守信有は、城山（勝山城）を要害城とし、吉田口には一族の小山田禪正を境に配し、大月口には、その子出羽守信有を駒橋に配した。国中、秋山方面の間道警備には、大幡、与縄に兵を配して守備したことが推察される。また非常の場合に備えて、円通院の裏山、鹿留の古城山などの要所に烽火台（出城）が配置されて、火急の情況が谷村館に通報された。